

平成21年度「奈良の元気な森林づくり(森林環境税の活用)」

○奈良県の森林は、県土の77%を占め豊かな自然環境を形成するとともに、私たちに多くの恵みをもたらしています。この豊かな森林を貴重な県民全体の環境資源として、将来に向けて引き継ぐため、森林環境税を活用した取組を推進します。

(森林の多面的な機能発揮をめざして)

1. 奈良の元気な森林づくり推進事業 (12,300千円)

放置人工林を調査し、その森林所有者に対して森林整備に活用できる各種制度の紹介や、森林が担っている多様な公益的機能について普及啓発を行い放置人工林の解消を図る。

- 緊急間伐マネージャーを設置 (21市町村43名)
 - ・放置人工林の調査と森林整備の普及啓発、緊急間伐協定締結の仲介を実施

2. 森林環境保全緊急間伐事業 (396,800千円)

放置人工林について、その森林所有者と県及び市町村が協定を締結し、強度な間伐を緊急に実施することにより、県土の保全や水源のかん養など、当該森林が発揮すべき環境面の機能増進を図る。

- 10年以上間伐されていないスギ・ヒノキの放置人工林に対する強度間伐(本数率40%以上)
- 対象森林は、①紀伊山地の霊場と参詣道や自然歩道のバッファゾーン、
②国立・国定・県立自然公園地内、③市町村が森林環境保全上重要と位置付けた箇所
のうち、緊急度・効果の高い箇所から実施
- 21年度は、21市町村で1,300ha程度の実施を予定

(自然との共生をめざして)

3. 里山林機能回復整備事業 (4,600千円)

都市近郊や集落周辺の荒廃した里山林を、県民参加の森林づくりとして、NPOやボランティア組織等の協力を得ながら整備し地域景観や森林機能の回復を図る。

- 市町村に森林バンクを設置し、里山林(所有者)と活動団体(NPO、ボランティア)を登録
- 所有者と活動団体が協定を締結し、里山林整備を実施
- 21年度は13市町村で20箇所の実施を予定

4. 森林環境教育推進事業 (33,920千円 内訳：農林部17,273千円、教育委員会15,096千円)、 くらし創造部1,551千円)

森林を環境資源として捉え、全ての県民で守り育てる意識の醸成を図る。

【農林部】

- 指導者養成セミナーの開催 (県民、森林ボランティア等を対象とした体験学習の指導者養成等)
 - ・基本的な指導者養成研修 (5日、年2回、40名)
 - ・実技中心の体験研修 (1日、年8回、1泊2日、年1回延90名)
 - ・林業技術・知識の修得研修 (20日、年1回、10名)
 - ・森林ボランティア向け安全技術研修 (1日、年3回、延45名)
- 体験学習の実施
 - ・基本的な指導者養成研修の修了者がリーダーとなって行う森林体験学習への支援 (40人)
 - ・森の学校(森林体験ツアー、自然観察、木工工作等)の開催
- 副読本の配布
 - ・森林林業への理解を深めるため、小学5年生向けに、授業で活用される副読本を作成・配布

○人材・フィールドの支援

- ・森林環境教育を行う地域活動等への講師の派遣とフィールドの斡旋
- ・「大和ふれあいの森づくり(企業等のCSR活動による森林整備)」を促進するためのPR活動

○**◎**県産材を使用した木育の推進

- ・県産材を使用した学習機を導入する小・中学校を所管する市町村に、導入費用を助成(1校200セット)

○森林環境税をテーマにしたシンポジウムの開催等

- ・森林環境税に関するシンポジウムの開催
- ・奈良県山の日・川の日シンポジウムの開催

【教育委員会】

○森林環境教育推進協議会の運営

- ・奈良県らしい森林環境教育の在り方を検討する推進協議会開催

○森林環境体験学習の推進

- ・各小学校指導計画に基づく体験活動の実施(50小学校、100クラス)
- ・野外活動センター体験学習プログラムの実施

○森林環境教育教員研修

- ・野外活動センター等での現地研修の実施(対象教員710名)

○森林環境教育技術者養成

- ・県産間伐材を活用したログ風東屋や木柵、木材製品の製作(吉野高校)

【くらし創造部】

○森林環境体験学習の推進

- ・野外活動センターでの間伐材を利用したログハウス作り、木工講座等の体験学習